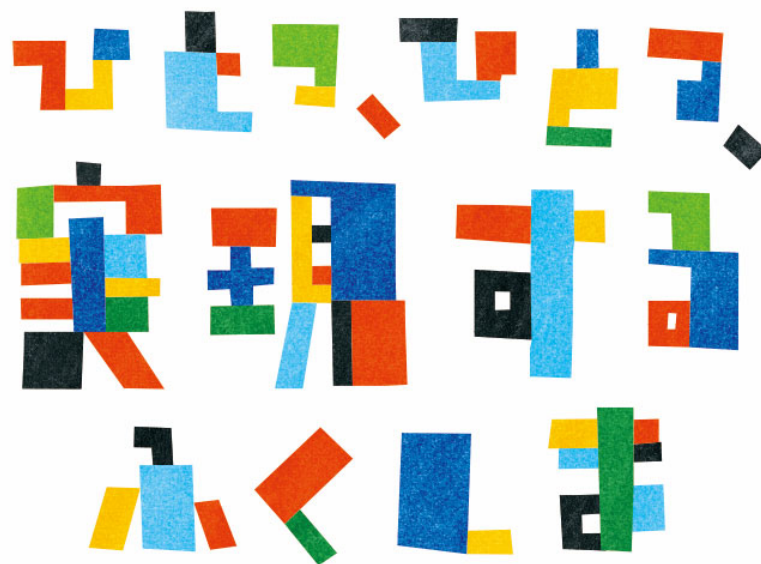


第2回 福島県・長崎県 国家戦略特別区域会議 ～新技術実装連携“絆”特区～



福島県提出資料
令和8年5月27日



ドローン

エリア単位でのレベル4飛行及びレベル4飛行での鉄道上空飛行の実施によるリスクアセスメント等の検討

- 長崎県に続き、令和7年12月に福島県南相馬市にて**エリア単位でのレベル4飛行**及び日本初となる**レベル4飛行での鉄道上空飛行**を実施し、必要な安全対策方法や地上及び空中のリスクアセスメント等を検討した。
- 今回の実証で得られた知見は、航空局が策定する留意事項等の改訂に整理・反映され、**エリア単位でのレベル4飛行実施時の具体的な方法がより明確化された。**

【凡例】 ●：離着陸ポイント ●：緊急着陸地点
.....：エリア申請範囲 —：飛行経路 —：鉄道



(飛行エリア：福島県南相馬市鹿島区)

水素

街中での水素貯蔵量上限緩和に向けた技術基準の検討

- **上限規制の適用を除外するために満たすべき技術基準**について、経済産業省及び国土交通省による検討会の場が設けられ、県及び浪江町等がオブザーバー参加し、とりまとめが行われた。
- **令和8年度中の特例許可取得**に向けて、検討中の技術基準に基づき施設整備について、関係機関と協議を進めた。



水素貯蔵所



今後の展望

ドローン

- 様々な条件でのレベル4×エリア単位での飛行を積み重ね許可条件の明確化とノウハウの蓄積を進める。
- 「飛行実績の創出・拡大」と「事業化」という2つの壁を乗り越え、令和8年度以降の福島・長崎発のドローンによるオンデマンド配送サービスの社会実装を目指す。
- 「技術」×「運用」×「社会受容性」3要素がテストできる“協調領域”を提供可能な地として、RTFエリアを国内随一のドローンイノベ拠点としていきたい。

水素

- 経済産業省・国土交通省において検討された新技術基準（案）に基づき、令和8年度中に特例許可取得の手続きを進め、令和9年度以降に水素貯蔵施設を建設する等水素を最大限活用した浪江町のまちづくりに向けて取組を進める。
- 浪江町での取組をリーディングケースとし、県内他地域へ横展開を目指すとともに、特区と各種支援施策を連動させることで、福島県全域を使って、効率的な水素の運用方法やサプライチェーン構築に関するモデルを作り、全国に先駆けて提示していきたい。

I 廃炉

II ロボット・ドローン

III エネルギー・環境・リサイクル

IV 農林水産業

V 医療関連

VI 航空宇宙

福島の復興・創生の更なる推進に向け、福島イノベーション・コースト構想の6つの重点分野を中心に、幅広い分野において必要な規制改革に取り組んでいく

「規制緩和×課題解決」で福島の「創造的復興」へのチャレンジを続けていく